

第2回 石綿に関する健康管理等専門家会議 主な意見

| 論 点 | 委 員 意 見 |
|---------------------------------|---|
| 石綿による住民への健康影響の実態把握について | <p>○子供の中皮腫に関しての情報がない。また子供の中皮腫をどこで対応するのかを整理しておくべきでないか。(鏡森委員)</p> <p>○石綿を含む廃棄物を回収する事業場を同定すること、青石綿を扱っていた事業場を同定することが大切ではないか。(森永委員)</p> <p>○30年代の保育所、小学校、高校など、勤務先など工場近くに通っていたかどうかの確認も必要ではないか。(森永委員)</p> <p>○まずは生存者に関する調査を先行して行い、生存者からでしか得られないばく露情報を収集してから、それを死亡者に関する調査に応用するのが良い。(名取委員)(森永委員)</p> <p>○また、調査員に対して事前に研修を行うなどして、調査技術を熟達させて、調査員による調査内容のばらつきがないようにすることが望ましいのではないか。(名取委員)</p> <p>○中には中皮腫でありながら別の病名で亡くなっている人もいる。きちんとした実態把握をするには、全死因の全国比較を行うべきではないか。(鏡森委員)(森永委員)</p> <p>○別の病名がついている人のなかで、実際の中皮腫患者を区別するのは困難であるので、まずは緊急度を考え、実際に中皮腫と診断のついている方から調査するのがよいのではないか。(土屋委員)</p> |
| 住民の健康管理の方法について ・簡易自記式調査票について | <p>○会社名をきちんと調査票に書く人は、中皮腫と診断される率が高いので、調査票には会社名と仕事内容を書かせると良いと思う。(以下、岸本委員)</p> <p>○簡易自記式調査票は、全員に配るというものではなく、不安のある人や自発的に相談に来た人に対して先ず行い、専門家の相談窓口につなげていくのがよいのではないか。</p> <p>○「近く」の概念は一概には難しい、0.5~1kmくらいではないか。(以上、岸本委員)</p> <p>○希望者に、調査現場で自記式の調査票を用いるとしたら、この程度の内容でよいのではないか。(名取委員)(成田委員)(森永委員)</p> <p>○調査は青石綿を扱っている事業場周辺を行えば良い。(森永委員)</p> <p>○項目に、廃棄物を回収する作業を追加し、タルク・パウダーは排除してもよいのではないか。(森永委員)</p> <p>○神山先生がクリソタイルの飛散距離を出したデータが前回の会議の資料にあったが、石綿の種類により飛散距離は異なることが考えられるが、調べられていない。だから尼崎をきちんと調査する必要がある。(森永委員)</p> |

| | |
|---|---|
| <p>住民の健康管理の方法について</p> <p>・エックス線検査等のメリット・デメリットについて</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○問診でリスクが高いと判った人には、胸部 X 線だけでなく、胸部 CT を撮影して胸膜プラークの有無を見るべきではないか。(森永委員)(岸本委員)(名取委員) ○肺野に石綿肺がある場合など、経過観察についてデザインを組み評価できるかどうか検討する必要がある。(森永委員) ○初回 CT をとって胸膜プラークの有無を確認するが、それ以降は毎年 CT を撮影するというわけではない。経過観察は胸部レントゲンでよく、必要があれば適宜 CT を撮影すればよいのではないか。(森永委員)(名取委員)(岸本委員) ○じん肺健診の場合には毎年 CT 検査がなされるので、石綿の健診との整合性が問題となるのではないか。(鏡森委員) ○若年者に対しては、レントゲン+CT 撮影の年齢をある一定の年齢以上にするなどの考慮が必要ではないか。(名取委員) ○CT に関しては早期発見の意味は薄いのではないか、1 回撮影して評価することはメリットはあるが、経年的に CT を撮ることは根拠がない。(祖父江委員) ○アスベスト関連で早期発見で治癒できるのは肺がんだけと言われており、コストや被曝を考えると、経時的な CT は推奨できない。(本田委員) |
| <p>住民の健康不安の解消について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○今回提出した簡易自記式調査票を、臨時相談会の時に使用したい。(岸本委員) |
| <p>その他</p> | <p>1) メソテリンという血液中のマーカー測定についての意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ○早期には余り値が上がらないため早期発見には役に立たないと思われる。有用性の検討には多施設研究が良いと思うが、早期の中皮腫患者自体の数が少ないために、その有用性の立証は難しいと考えられる。(岸本委員) ○偽陽性、偽陰性がある。陽性と出た場合にも、確定診断には胸腔鏡が必要となり、過度の侵襲になりかねない。方向性のある研究であると思うが、まだ検証段階で、FDA の認可も下りていない。(名取委員) |